

中学校におけるキャリア・パスポートの効果的な活用に関する研究

—自己理解の深まり，学ぶ意欲の向上を目指して—

田中 淳一（京都市総合教育センター研究課 研究員）

予測困難で先を見通しづらい現代において，キャリア教育の必要性が高まりをみせている。本研究では，令和2年度より全国で導入されるキャリア・パスポートという教材の効果的な活用について研究・実践を行った。キャリア・パスポートを通して，自己理解を踏まえた目標設定をすることにより，生徒の自己に対する肯定的な理解が深まり，学ぶ意欲を高めることができると考え，実践を進めた。

第1章 キャリア教育の必要性

第1節 キャリア教育とは

キャリア教育は，「一人一人の社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して，キャリア発達を促す教育」と定義されている。一方で，日本における若者の社会的・職業的自立は，十分な現状であるとはいえない。そうした中，中学校では令和3年度より全面实施となる新学習指導要領において，小学校段階からキャリア教育を推進することが明確化された。

中学校段階では，学ぶことと自己の将来とのつながりを見通すことや，主体的な進路選択に向けて，中学1・2年生の時から，社会的・職業的自立に向けた取組を積み重ねておくことが重要であると考えられる。

第2節 キャリア教育を通して育む資質・能力

キャリア教育を通して育む資質・能力は，「基礎的・汎用的能力」として，①人間関係形成・社会形成能力，②自己理解・自己管理能力，③課題対応能力，④キャリアプランニング能力の4つに整理されている。本研究では，このうち「自己理解能力」に注目し，その内容を資質・能力の3つの柱に分けて示す形で，表1のように整理した。

表1 本研究における「自己理解能力」

知識・技能	・自己の適性・役割の理解
思考力・判断力・表現力等	・自分を振り返り，良い点を伸ばし，課題を受け止め，克服していくことができる力
学びに向かう力・人間性等	・前向きに考える力 ・主体的に行動し，進んで学ぼうとする力

こうした自己理解を深めるために，生徒が学校生活での活動を記録し，蓄積する教材として活用されるのが，キャリア・パスポートである。

第2章 キャリア・パスポートの効果的な活用に向けて

第1節 本研究におけるキャリア・パスポート

本研究で用いるキャリア・パスポートを，国の例示資料を参考にしつつ，自己理解に関わる項目を重視することを意識し，独自で作成した。

また，本研究では，キャリア・パスポートを用いた授業を学年初めおよび学年末の2時間に設定した。したがって，その間に生徒が経験するさまざまな取組の振り返りを記録し，学びをつなぎ蓄積しておくことが大切であると考えた。

第2節 キャリア・パスポートを用いた振り返りを充実させるために

本研究では，次の2つの手だてを講じた。

1つ目は，生徒の学びをつなぐ振り返りシートである。学校行事ごとにつなぎ，以前に感じた成長や課題を今後につなげることで，自己理解をさらに深めることをねらいとして作成した。

2つ目は，教師からの言葉がけを例示したキャリア・カウンセリングシートである。生徒の自己理解が深まる機会を引き出せるような言葉がけのイメージが膨らむよう，一例として作成した。

以上から，本研究の構想を図1のように表した。

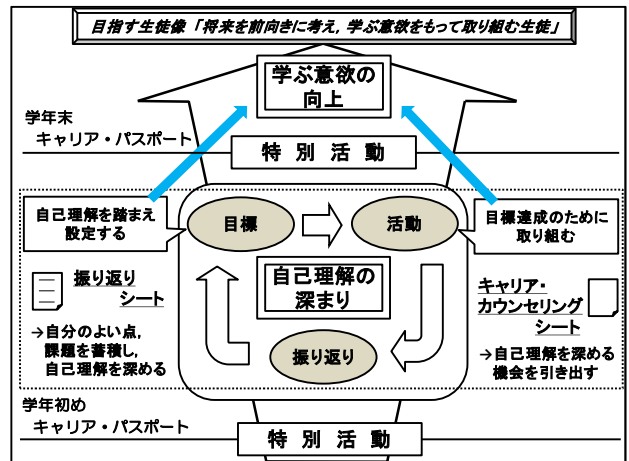


図1 研究構想図

第3章 実践の具体

第1節 キャリア・パスポート（学年初め）

学年初めのキャリア・パスポートを用いた実践では、自己理解に関わる項目への記述をより充実させるための工夫として、「私の自己PR」を1分間スピーチで発表する時間を設定した。生徒はさまざまな切り口から自己PRを考え、他者に向けた発表を通して、自分を見つめることができた。

加えて、他者からコメントをもらうことで、自己PRをさらに記述する姿もあった。このような活動を経て、それぞれの生徒が今後の目標を前向きに意思決定している様子が見られた。

第2節 間をつなぐ実践

（1）A校の実践—学校行事でつなぐ

A校では、先述した振り返りシートを活用しながら、学校行事でつなぐことを意識した実践を行った。振り返りを行事ごとに繰り返す中で、各行事の間を自らが学んだ内容でつなぎ、自己理解を深めている生徒の記述が見られた。

また、前の取組で挙げた課題を次の取組の目標として設定し、達成のために行動したことを成長した点として記述する生徒の姿もあり、学ぶ意欲を高めている様子を見取ることができた。

（2）B校の実践—生き方探究・チャレンジ体験を中心としてつなぐ

B校では、京都市における職場体験である「生き方探究・チャレンジ体験」を中心としつつ、事前・事後学習の充実を図り、他の学校行事等も関連をもたせながら進めていくことが計画された。

事前学習として、10年後のケーキ屋さんについて考える授業や、文化祭での学年劇および展示発表を行った。活動を通して感じた自分の成長や課題をまとめ、職場体験に向けて意識を高めていた。

そして、職場体験および事後学習から、今後に向けて取り組んでいきたいことを意思決定した。

第3節 キャリア・パスポート（学年末）

学年末のキャリア・パスポートを用いた実践でも、さらに自己理解を深めることを重点に置いた。

全体として、学年初めよりも積極的に、自己理解に関わる項目を記述する生徒の様子が見られた。また、蓄積していた振り返りシートを用い、キャリア・パスポートに反映させている姿もあった。

また、なかなか書き進められない生徒に対しては、教師がキャリア・カウンセリングシートを活用した言葉がけを行い、記述が具体化された。

第4章 研究の成果と課題

第1節 研究の成果

（1）生徒の記述内容から

蓄積された振り返りシートの記述内容および生徒対象のアンケートから、振り返りシートを用いることで自己理解に関わる内容が具体的なものとなり、学びをつなぐ役割を果たし得ることが分かった。また、キャリア・パスポートを記述する際の基礎資料として役に立つことも示唆された。

キャリア・パスポート（学年末）では、ある生徒の「中学2年生になって新たに成長・発見したこと」として、以下のような記述が見られた。

自分の生き方や、大切なことを発見することができた。例えば、人のことを考えるということを学び、少しでも成長できたような気がします。
--

学校行事における学びを記録した振り返りシートをもとに、自分の成長を感じ、自己理解を深めている生徒の姿があった。そして、アンケート結果から、ほとんどの生徒がキャリア・パスポートに関わる取組を通して学ぶ意欲が高まったと感じていることも分かった。

（2）教師（大人）の対話的な関わりから

実践の中で、生徒に対しインタビューを行った。その結果、キャリア・カウンセリングシートを用いた言葉がけを行うことで、生徒の自己理解がより深まり、今後に向けて前向きに取り組む意欲が高められる可能性が示唆された。

また、教師にもインタビューを行った。教師はキャリア・カウンセリングシートに記載されたポイントである、①反復し、褒める、②記述内容は生徒から出させる、③肯定的な言葉がけをする、④具体的な目標を設定する、の4点を意識して言葉がけを行っていた。その結果、生徒理解がさらに深まり、生徒に対する見方が肯定的なものに変わってきた、と自身の変容を振り返っていた。

第2節 課題と今後の展望

実践から明らかになった課題として、①どの取組を振り返りの対象として設定するか、②学ぶ意欲の向上をより詳細に見取ること、を挙げた。

また、今後に向けた展望について、①各教科等でのキャリア教育の実施および検証、②キャリア・カウンセリングシートの、振り返りを行う場面以外での活用、③京都市版キャリア・パスポートの活用、の3点に分けて述べた。